

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.817 2022

2022年6月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



5月にオープンした“Ukraine Café HIMAWARI”（▼2面）

OPINION

「あなたがたに平和があるように」

新約聖書 ヨハネによる福音書20章26節

キム シンヤ
在日大韓基督教教会牧師 金 迅野

はかりしれない不安と恐怖のなかにいるウクライナの人びとの傍らに寄り添う活動を、YMCAがいち早く始めたことと聞きました。突然足を踏み入れることになった異国の地で避難生活をするための困難。明日に対する消えない不安。度々想起されるかもしれない見聞きしてしまった暴力の恐怖の風景。起きている事態に対する「これはいったいなんなんだ?!」という問い。身動きができない家族を残して避難してしまったことへの後悔……。

その消息を聞き、私は、イエスが十字架に架けられた後、自分たちも弾圧されることを恐れて、弟子たちが鍵をかけて部屋に閉じこもっていたことを思い出しました。復活のイエスは、恐怖と不安の最も深い闇のただなかに現れて、「あなたがたに平和があるように」（ヨハネによる福音書20:26）と、何度も語りかけた聖書は伝えています。そして、「聖霊を受けなさい」という言葉とともに「息」を吹きかけたとも。「聖霊＝Holy Spirit」とは、不思議なものですが、人びとを再生の「うごき」へと促す力です。たとえば、人生の旅路のなかで私たちは幾度か「もうだめだ」、「このトンネルを抜けることはない」と感じたことがあるかもしれません。しかし、気がつくところにいる、そういう「再生」を私たちはなんども経験してきたのではなかったでしょうか。

死して三日後にイエスは復活したと伝えられています。それをおぼえるのが復活節（イースター）ですが、このことを科学の言葉で説明することはできません。ただ、復活とは、死体が蘇生したのではないということ、本来は「起こされる」という意味で死や絶望を乗り越えて新しいいのちをとまなびて生き直すことであること、その意味で復活は私たちの身の上にも日々起きうるのだということ、そのことが大切なことだと思っています。

一瞬現れるウクライナ「避難者」の彼／彼女たちの安堵の微笑みの裏に横たわっているであろう鍵を締め「閉じこもる」心は、人間が容易に解けるものではないかもしれません。しかし、私は、YMCAの活動の背後には、「これはいったいなんなんだ?!」という問いへの共感とともに、イエスの「あなたがたに平和があるように」というあの声が、静かに佇んでいると信じています。そしてイエスが吹きかけた「息＝スピリット」が、いま、スタッフや支援する方々に臨み、閉じこもらざるをえない人びとが「起こされる」時間と空間をつくりだす「うごき＝活動」へと促しているのではないかと感じています。そして、「スピリット」の促しに応じて活動へと向かうことこそがYMCAのミッション（遣わされること）だと思うのです。

私はこれまでYMCAの、高校無償化から排除された朝鮮学校への支援や、東日本大震災時とその後の持続的な取り組みなどに接し、すべての活動が、痛み小さくされた人びとの声を聴き受け止めるところから始まっていたことを学んできました。今回もウクライナから避難してきた人びとの声を聴き寄り添うことと、いわれのない嫌悪や差別を向けられるロシアの人びとに対する共感が示されました。

さまざまな「声」の連なりが人びとの連なりの核にあるものだとしたら、そのような「声」に耳を澄ますなかで、人びとの連なりへと促すスピリットが伝えるミッションを、私もともに担い歩んでいきたいと思えます。和解より武器の投入へとなだれこむあり方や、イラクやアフガニスタンや現在のミャンマーなどの地で深く傷つき痛みを負った人びとへの共感のあり方を省みることへのスピリットの促しを感じつつ……。 (横浜YMCA維持会員)

ウクライナ避難者支援募金 2022年8月31日まで

日本へ避難するウクライナ人の、出国から
来日、その後の生活支援のために

ウクライナ国内およびヨーロッパ諸国
に避難している方の生活支援のために



お近くのYMCAを通して、または下記へ送金ください。
◆ゆうちょ銀行 振替口座（振替貯金）
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
◆募金サイトからはクレジットカード・銀行振込が利用可能
<https://srv.asp-bridge.net/ymca/privacy/7>



上記プロジェクトは、日本YMCA同盟が
加盟する世界YMCA同盟と、ヨーロッパ
YMCA同盟、また、日本全国YMCA、関係
団体と連携して行われています。

平和への思いこめて ウクライナ出身音楽家 民族楽器バンドウーラ演奏会

ウクライナ出身で、日本で活動している音楽家のカテリーナさんを招いて4月15日、横浜YMCA発祥の地である日本キリスト教会横浜海岸教会を会場に、ウクライナYMCA緊急支援募金のための演奏会「民族楽器バンドウーラ～平和へのしらべ」を開催しました。

演奏会を始めるにあたり、ウクライナで困難な状況にある人びとに想いを寄せ、黙とうを捧げました。ウクライナYMCAの動画を通して子どもやユースの目から見た今のウクライナの状況に触れたのち、3月に首都キーウから日本へ避難したカテリーナさんの母マリヤさんからは、「チェルノブイリの原発事故と今回の軍事侵襲により、2度も故郷から逃げなければいけなくなり、これほどつらいことはない。日本の皆さんの優しさ・温かさに触れ、心から感謝しています」とメッセージをいただきました。

カテリーナさんは、ウクライナ民謡のほか「ふるさと」「翼をください」など日本の楽曲も披露し、平和を願う、透き通った歌声が会場に響き渡りました。「つらい日々が続いていますが、歌と演奏によって平和を訴えていきます」と想いも語られ、参加者とともにウクライナの今と平和に想いを馳せるひとときとなりました。

当日は、会場参加、オンライン視聴、スタッフを含む240人の参加があり、参加費と会場での募金をあわせて、369,756円の募金となりました。

今回の演奏会は、公益財団法人かながわ国際交流財団、公益財団法人日本YMCA同盟との共催、日本キリスト教会横浜海岸教会に後援をいただき、地域にある団体や教会とともに平和を祈る機会となったことに感謝いたします。

横浜YMCA 柳原 絵里子



ホノルル広島国際交流プログラム Let's Get Together

中高生の国際交流プログラム「Let's Get Together」は、「リメンバー・パールハーバー」と「ノーモア ヒロシマ」を原点に、平和を願うホノルル・広島両YMCAによって始められた、60年以上の歴史を持つプログラムです。

2019年度までは、隔年で学生の渡航と受け入れをし、キャンプやホームステイを通してお互いの国の文化・習慣を理解し、友情の輪を広げてきましたが、新型コロナのためこの2年間は、渡航が難しくなっていました。

今年は、大切なこのプログラムを継続するために、Zoomを使いオンラインで交流することになりました。



プログラムは4月17日から全3回。初回はアイスブレイクをかねたアクティビティ等で楽しく過ごせました。ホノルルと日本の学生に「自分たちの共通点を3つ探す」というテーマでグループワークを行いました。初めて話をする他国の友人との共通点をすぐに見つけ、仲良くなることができました。

このプログラムで感じたことは、平和のために私たちができることは「相手を知ろうとすること」「相手に自分を知ってもらおうこと」なのではないかということです。育ってきた文化背景や価値観が違う誰かと仲良くなるためには、まず相手を知り、自分を知ってもらうことが大切です。相手に歩み寄り、違いを受け入れようとするれば争いは起きません。理解しあおうという努力こそが平和への第一歩になるのだと思います。参加者たちにとってこの経験が貴重なものになればと思いました。 広島YMCA 牧野 円香

ウクライナから日本へ

YMCAネットワークで避難をサポート

ウクライナから日本への避難者を支援するために日本YMCA同盟は3月以来、ウクライナYMCA・ポーランドYMCA・ヨーロッパYMCA同盟と連携し、出国手続きやビザ書類作成、待機期間中のホームステイ提供など、来日までの約2週間をサポートしています。4月末日までに39組87人の来日および来日後の生活を支援。中には持病や障がいのある方、経済的困難を抱える方、保育や教育を必要としている方もあり、そのニーズはさまざまですが、皆さまからお預かりした募金を用い、他団体とも協働しながら対応を続けています。

活動の進捗は、下記ホームページで随時発信しています。
<https://www.ymcajapan.org/>



マリアさんとアリサさん
母子2人で避難

日本でどうやって暮らせるのか全くわからなかったけれども、とにかく子どもの安全と教育のために避難したいと思い、YMCAに相談しました。4月に来日後、東京都の「ウクライナ避難民ワンストップ支援」を申請して今は都営住宅に住んでいます。保育園を探したり、仕事を探したり、たくさんの手続きをしたりと忙しいです。早く自立して、いつか誰かを支援できるくらいに強くなりたいです。



シルコウさんご家族
母子3人で避難

キーウでは毎日警報が鳴って、夜も眠れませんでした。学校の友だちも全員、ドイツやイタリアなどさまざまな国に避難。残された人たちは、爆撃のひどかったブチャの人たちに食料を届けたり、避難した家のペットの世話をしたりと助け合って暮らしました。日本には以前から興味があって日本語も少し勉強したことがあるので、来日できたことは嬉しい。でも、21世紀にこんなことが起こるなんて信じられない。戦争はすぐにやめてほしいです。

YMCAが 関わった 避難者の声

私は以前から大阪に住んでいるので、母と姪を自宅に呼び寄せました。姪の父親は出国できず、母親もウクライナに残りました。姪は両親を心配して、一日に何度もケータイで連絡をとっています。トラックの音を警報と勘違いして怯えることもあります。明るいアニメなどを見せて気を紛らわせようとしていますが、泣いていることも多く心配です。



イリーナさん
母と姪が来日

私は以前から日本に留学しているので、ニュースを見てすぐ、オデーサの親戚を呼び寄せたいと思いました。でも自分のアパートは狭いし叔父には持病もあったのでYMCAに相談。多くの人のサポートで来日できました。オデーサを出発した翌日、近所に爆撃がありました。間一髪でした。来日まで1か月間は、ビザの申請や検査などクリアしなければならぬことが多くて、毎日不安でたまりませんでした。来日できてほっとしています。



テンジャンさん
いとご家族と祖母が来日